

不登校の後、二十歳で自殺してしまった青年が
亡くなる1ヶ月前に書いた作文です。

今 私が考えている事

私は、今高校三年生になり自分にかけているものを考える様になりました。それは自分自身に負けていることに気付き自分自身に負けないようにどうすればよいか考えています。

今の自分は体に病気を持っているのでその病気に打ち勝つようにいろんな病気の治し方をためしてみています。体がなかなか治らないことで普通の人ができるのが、自分にはできないと言うはがゆさがいい方向に向かえばいいのですが、人と話をするのがいやになったり、なにに対しても、無気力になり劣等感が毎日続き、日々あれた生活をしています。

二十歳になり年をとるごとにその気持ちが強くなる一方でどうすることもできない自分にはがゆさを感じています。

このようになってしまった自分をどのようにしていくか高校生活の最期の年なんとか自分自身をもとの体にもどしていくしかないこの一年間で治していきたい気持ちでいっぱいです。

この高校生活をうまく乗り越えていき明日から逃れないように、七転八起の気持ちで生きていきたい。

いつか人間になりたいです。

将来は、自分には見えないけど一步一步前進してもう一度だけがんばっていかうと思いいこの一年間で自分を変えていきたいです。

—————

この、最後の心の叫びのような作文は、何度読んでも胸が引き裂かれるような気持ちになります。